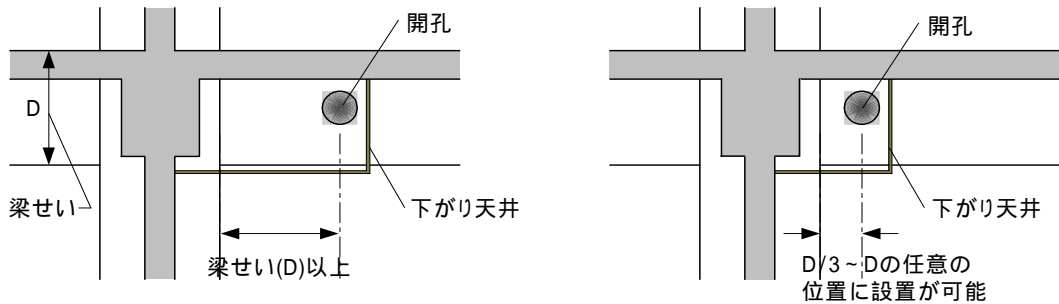


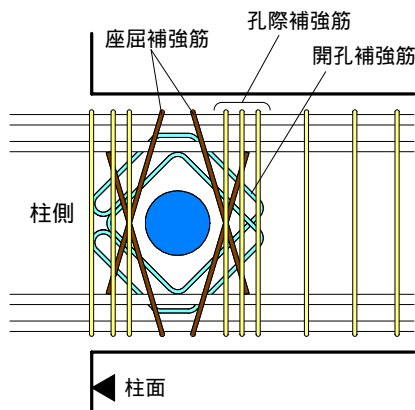
MAX-E工法 鉄筋コンクリート造梁端部開孔補強

従来は困難とされてきた鉄筋コンクリート梁の新しい補強方法を開発しました。この開発により、下がり天井の出隅部分の張り出しを最大で梁せい(450~650mm)程度小さくすることが可能となり、居住空間が拡大し、住戸プランのバリエーションが豊富になります。



構造実験による性能確認

計 28 体の試験体により実験を行い、大地震時に予想される梁の変形に対しても、開孔部で破壊しないことを確認しました。



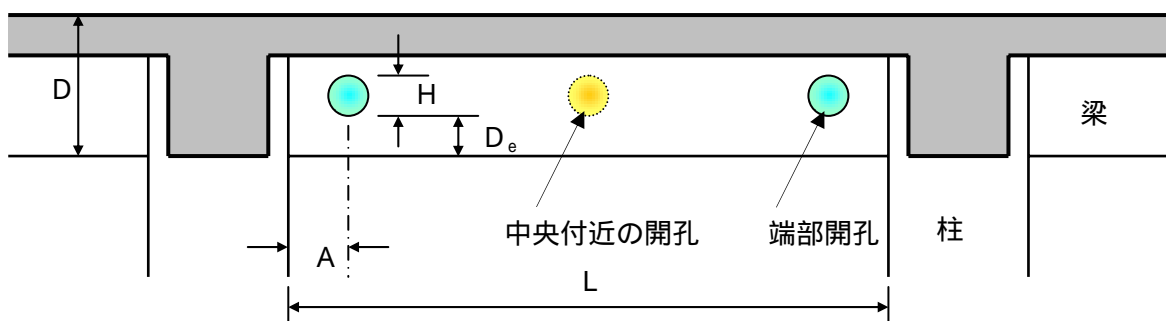
適用範囲

開孔直径(H) : 梁せい(D)の1/3.5かつ300mm以下

へりあき(D_e) : 梁せい(D)の1/3かつ200mm以上

梁端部柱面から開孔中心までの距離(A) : 梁せい(D)の1/3かつ1.0D未満

梁中央付近の開孔との併用も可、ただし端部開孔と中央付近の開孔との中心間距離は梁せい(D)の2倍以上



施工実験による施工性の確認

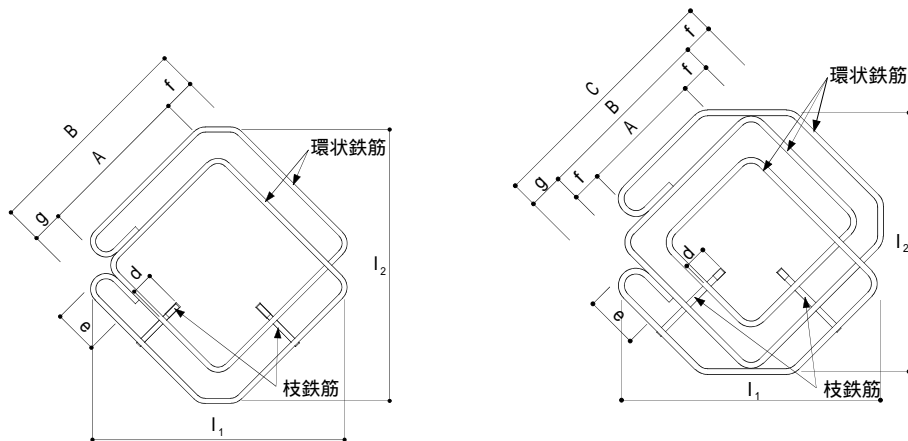
施工実験により施工性の確認を行いました。その結果、座屈補強筋や開孔補強筋の配筋およびコンクリートの充填性について問題ないことを確認しました。



公的に認められた技術

MAX-E工法は、公的審査機関である(財)日本建築総合試験所の性能証明を取得しています。

MAXウエブレンEの仕様



使用材料はMAXウエブレンに準じる

MAXウエブレンE 寸法・重量表

開孔径	タイプ	各部寸法 (mm)								重量 (kg)	
		A	B	C	d	e	f	g	l1		l2
100	S6-2R	175	247		34	51	36	36	282	308	0.45
	S8-2R	180	276		35	68	48	48	300	334	0.76
	S10-2R	200	320		42	85	60	60	345	382	1.29
	S13-2R	220	363		52	111	65	78	376	403	2.42
125	S6-2R	200	272		34	51	36	36	317	342	0.50
	S8-2R	205	301		35	68	48	48	335	369	0.84
	S10-2R	225	345		42	85	60	60	380	417	1.41
	S13-2R	245	388		52	111	65	78	411	438	2.62
150	S6-2R	230	302		34	51	36	36	360	386	0.55
	S8-2R	230	326		35	68	48	48	370	405	0.91
	S10-2R	250	370		42	85	60	60	415	453	1.52
	S13-2R	270	413		52	111	65	78	447	474	2.81
175	S6-2R	255	327		34	51	36	36	395	420	0.60
	S8-2R	255	351		35	68	48	48	405	440	0.99
	S10-2R	275	395		42	85	60	60	450	488	1.62
	S13-2R	295	438		52	111	65	78	482	509	3.01
200	S6-2R	280	352		34	51	36	36	430	456	0.65
	S8-2R	280	376		35	68	48	48	440	475	1.07
	S10-2R	300	420		42	85	60	60	485	524	1.74
	S13-2R	320	463		52	111	65	78	517	544	3.21
	S16-2R	340	516		62	136	80	96	561	594	5.55
	S16-3R	340	500	676	62	136	80	96	707	707	9.20
250	S8-2R	330	426		35	68	48	48	510	546	1.23
	S10-2R	350	470		42	85	60	60	555	594	1.96
	S13-2R	370	513		52	111	65	78	588	615	3.61
	S16-2R	390	566		62	136	80	96	632	665	6.17
	S16-3R	390	550	726	62	136	80	96	778	778	10.14
300	S8-2R	385	481		35	68	48	48	590	624	1.38
	S10-2R	400	520		42	85	60	60	625	665	1.74
	S13-2R	420	563		52	111	65	78	659	685	4.01
	S16-2R	440	616		62	136	80	96	702	735	6.80
	S16-3R	440	600	776	62	136	80	96	849	849	11.07

* MAX-E工法を採用する場合は設計段階から検討することをお勧めします。設計が完了しているものに適用する場合は設計変更が伴うことがありますので、設計担当者による十分な検討が必要となります。検討を行うための詳細な資料につきましてはテイエム技研(株)までご請求ください。

問い合わせ先：テイエム技研東京支店 tel：03-3273-1871 fax：03-3273-1874

MAX - E 工法配筋例

